

# 日本語英国教会ニュースレター

第84号 2017年2月発行

## 被献日

竹内謙太郎司祭

私たちは時間の中に生きています。その中で年を取り、成長し老いていきます。時間は私たちが自分自身の在り方や生き方など、そして生きている自分を確認するために与えられた神様からの恵みの業だと思えます。キリスト教会もその時間の中に在ります。この時間を確認するために、私たち、キリスト教会は教会暦という特別な暦を与えられています。しかし、この暦は私たちのためですが、そこには私たちが私たちの信仰の営みを方向付けたり、意味づけしたりする深い内容を持っているのです。

その内容とは、とりわけクリスマスを迎える12月頃から、主イエス・キリストのご復活を祝う翌年の4月ころまでに展開される主イエス・キリストのご生涯を辿る期間です。

私たちはこの期間に、主イエス・キリストのご生涯を辿り、また、自分たちの生活や生き方がどれほど主イエス・キリストのみ言葉と教えに沿っているかを深く考えるのです。キリスト教会はその始めから、中心的な教えとして、いかに私たちが主イエス・キリストと共に生きていけるか、いかに主イエス・キリストの生き方を自分のものにしうるかを、学び実践するように導いてきました。もし、私たちが一致して主イエス・キリストと共に生きることができれば、世界、そして身近な社会は一変するのではないだろうか、と云う思いです。その故に、キリスト教会は教会暦を真剣に守り、そこで進められている実践にいそむように私たちに導いてきたのです。ですから、現在の季節、ご復活に至るまでの約5か月間はとりわけ重要とされてきました。私たちは直接主イエス・キリストの成長され生きていかれる姿を目の当たりにする季節だからです。

被献日はその中でも私たちが特に大切にすべき時、と言えるのではないのでしょうか。この日は、イスラエルの人々にとっては、自分たちが父である神によってえられ、守られ、特別な位置を世界の中に充てられていることを確認するときです。神殿において、誕生後、初めて神様と直接まみえるときです。それは自己が神のものであることの確認なのです。単なる人であったり、動物であったりするのではなく、この世界に人に与えられるはずの使命を確認するときでもあるのです。人は意味なく生まれては来ません。一人ひとり、必ず何かその人に特有の使命があると確信するところに、信仰に向かう根拠があるのです。神様を信じるといのは、自己自身にも生まれるということの中に自分にとって特別な仕事、使命、意味、が在る、と確信することなのです。

この記念日、被献日に主イエス・キリストはご自分が人間の一人として、特別な使命があることをお示しになったのです。この日をもって主イエス・キリストは十字架への道を歩き始められたと言ってよいでしょう。主イエス・キリストを神殿に連れてきた養い親のマリアとヨセフがそのことを理解していたとは思われません。彼らは神様の手に導かれて、なすべきことをした人たちというだけで十分でしょう。

厳密な言い方をすれば、この日から、主イエス・キリストはご自分を捧げるという生き方の道を進み始められたのです。私たちはこの日を教会暦の中で守り続けてきました。その意味は、私たちもまた、主イエス・キリストと共に、神様の御心に従って生きるという道を進むのだという、私たちの確かな意志の表明の時として守っていこうと決心するということなのです。この日を大切にいたしましょう。

**\*\*被献日— The Presentation of Christ in the Temple** イエス様の誕生 40 日後である 2 月 2 日が被献日。ルカ 2 章 22 節「両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った」際にシメオンがたたえて言った言葉（ルカ 2 章 29 節）は、夕べの祈りの中で唱えています。被献日にキャンドルを聖別する **Candlemas** が行われます。

一般的に1月6日顕現日 Epiphany にクリスマスの飾りを片付けますが、被献日まで Nativity を置く教会もあります。

□□□□□ 前回の報告 □□□□□  
日本語英国教会 St.Martin's

2017年最初の集まりは、事前に欠席をお知らせくださった方々が多かったにも関わらず、園田先生を囲んで、大人12名子供7名が顔を揃え、良いスタートを切りました。

「信仰と生活を考える」では、去年1年はどんな1年でしたか？という園田先生からの質問。年の瀬には1年を振り返り、心を新たに新年を迎えるものです。大変な1年だったかもしれないけれど、神様から頂いた数々のお恵みを感謝し、また良い年を歩んでいきましょう、という新年に相応しいメッセージでした。『どんなに辛い時、不安な時でも、数えてみよ主の恵み。そうすると心に安らぎが得られます。』というのが、先生が持って来て下さった聖歌「望みも消えゆくまでに」の歌詞の内容です。次回の集まりの礼拝の時に、是非皆で歌いたいと思います。

遠藤淑子

「顕現 イエスがもたらした光を求めて」と題して話しました。イエスの誕生後12日目である1月6日顕現日 Epiphany は東方3人の博士がイエスを拝みにきたことを覚える日です。3人の博士が捧げた黄金、乳香そして没薬はそれぞれ「王である象徴」「神聖」「十字架での苦しみ、受難」を示すと言われ、イエスが何者だったのか、暗示しています。顕現の意味は「はっきりと姿を現す」「はっきりとした形で現れる」です。また、顕現 エピファニーア（Epiphany）の原語には、光という意味が含まれていますから、光を照らす、他の人に伝えるというのが、顕現ということになるかもしれません。

真っ暗闇の深い霧の中で前の車のテイルランプだけを頼りに運転する様な恐ろしく不安な経験を皆さんもした事があるでしょうか。神様は、そのテイルランプの様なものなのです。星の光に導かれた博士達のように、私達も世の光である神様を見失わない様に、導かれて生きたいものです。また、イエス様からいただいた光を私達も照

らして、他の人々に現すことができるように共に祈りながら今年も歩みたいと願っています。 ジョンソン友紀

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

## 日本語英国教会 South East からの報告

1月22日(日) St Hugh's 教会にて、今年初めての勉強会がありました。今回は「キリスト教のカレンダーと1年間の行事」について取り上げ、救世主イエス・キリストの誕生を待ち望むアドヴェントから始め、クリスマス、エピファニー、そしてイースターなど、1年を通しての暦を英国（もしくは欧州）で行われる行事や文化を織り交えながら振り返りました。クリスマスに関しては、ネイティブティーの説明や人気のクリスマスキャロルのご紹介、クリスティングル サービスに使われる赤い横線の入ったオレンジとろうそくの意味、英国で現在クリスマスツリーに使用されているモミの木の由来と英国王室の関係など。又、イースターでは、シュローヴ チューズデーにパンケーキを焼いて食べる習慣や、イースター期間中の食事制限の試み、マザーリング サンデーに行われる教会内での行事、パーム サンデーに教会で配られる十字架の由来等を、聖書に照らし合わせながらお話がありました。教会の誕生日とされるペンテコステでは、神からの精霊が降り注ぎ「一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話し出した。」と使徒言行録にあります。参加者の方より、旧約聖書のバベルの塔の物語では、人々が共有する言語が多言語となった為、人々が意思の伝達が取れなくなり混乱を招いたことと比較をすると、新約聖書では1つであった言語が多言語となったとの対比が興味深いとのことがありました。バベルの塔では、人間が神に対抗をしようという人間の傲慢により、神と人間、人間と人間との二つの交わりの破綻を伝えました。それとは逆に、聖霊降臨では、神と人間のコミュニケーションが再建されと同時に人間と人間のコミュニケーションが回復されていくことが示されています。人間の技術や能力を過信することよりも、神が、人と人との交わりの回復を実現させる為に色々

な言語を用いようとされたことは、大変意義深いことではないでしょうか。

Hall 美奈子 jac.selondon@gmail.com



□ □ We Won't Forget You-東日本大震災 6 周年を覚えて □ □

3 月 11 日 (土) 9 時半から午後 1 時半まで

St Margaret's Church Westminster Abbey SW1P 3JX

昨年同様に追悼の象徴としての桜の木と花びらを用意いたします。未だに心に痛手を受けている方々そして困難な生活をされている方々に希望と慰めが与えられますように祈りながら、花びらで桜を飾りたいと願っています。被災地の写真の展示と資料の閲覧、そしてティーキャンドルの燭台も用意します。Tom Plant 神父、Eric Lobsinger 神父も来られる予定です。上記の時間内は出入り自由ですので、ご都合の良い時間に ぜひ、お誘いあわせの上いらしてください。

□ □ 3 月の集まり □ □

3 月 19 日 (日) 日本語聖餐式 司式: Tom Plant 神父

□ □ 4 月の集まり □ □

第三日曜日はイースターですので、第四日曜日の 4 月 23 日が集会となりますので、ご了承ください。

□ □ 日本語英国教会発足 10 周年記念礼拝 □ □

5 月 21 日 (日) 午後 3 時

聖餐式: ウィリアムズ郁子司祭

上記の特別礼拝の詳細は、追ってお知らせいたしますが、特別なお祝いの日となりますので、今からご予約に入れてください。



九州地震被災者支援室 日本聖公会九州教区からの報告の簡略

2 月 1 日一有志が前日から仕込み、朝完成したばかりの韓国風のり巻きを配布しました。私たちとしては、ちょっと珍しい美味しい物を手渡して、コミュニケーションを図りつつ少しでも笑顔になってもらえたらと願って

の取り組みでした。食べることは生きること。ささやかなプレゼントと訪問を喜んでいただいていたようです。

2月2日一朝、不用品処分の作業依頼を受けたお宅へ下見に行きました。解体作業は、危険度が高く、通りに面したところから進められています。つまり同じように壊れていても人がおらず奥まったところは後回しになります。そんな取り残されたような場所がまだたくさんあります。状況を確認し、作業の段取りを進めることにしました。通りがかりに近所の方と立ち話。自宅はなんとか補修したものの周りの殆どの家は壊滅状態で、町をどう再建できるのか、不安と不満を口にされていました。午後は、お馴染みの園芸店の軽作業のお手伝い。そして巡回・訪問。よく訪ねる方のお宅は余震のせいか日ごとに傾いているように感じます。最後にもう一つ、新たに作業依頼を受けたお宅を訪問。少し離れた集落にあるその家は、昨年4月から時間が止まったままのような状態でした。後日の作業を約束し、別れてきました。またまた大きな仕事が入りました。心を込めて作業に取り組みたいと思います。

どうぞ、被災者そして支援活動をされている方々の為に祈ってください。

**日本語英国教会 West Acton**

**2月19日（日曜日）**

午後3時から 5時まで

信仰と生活を考える集い

司会：園田先生

タバの祈り 司式 ジョンソン友紀

ティータイム

場所：St. Martin's,

**Hale Gardens, LONDON W3 9SG**

礼拝後にはティータイムをもちます。

皆様、お誘いあわせの上いらしてください。

Commissioned Lay Minister：ジョンソン友紀

120 Carthorse Lane REDDITCH B97 6SZ

携帯 07503 893880

yukifunakawa@btinternet.com

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/jacuk>

<http://www.geocities.jp/eikokukyokai07/>